

## ・多自然川づくり

多自然川づくりは、必要とされる治水上の安全性を確保しつつ、生物の良好な生息・生育環境をできるだけ改変しない、あるいは改変せざるを得ない場合においても最低限の改変にとどめるとともに、良好な河川環境の保全あるいは復元を目指した川づくりです。また、良好な河川環境が人為的な影響を受けて大きく改変されてしまっている場所においては、もともとあった良好な河川環境にできるだけ近づくよう努めることが重要です。

多自然川づくりのポイントは次のとおりです。

### 1. 多様な河川環境を保全・復元しよう

その川がもともと有していた生物の多様な生息・生育環境を保全・復元することによって種の多様性を確保することができます。

### 2. 連続した環境を確保しよう

河川やその周辺に生息・生育する生物にとって、河川の上下流方向、横断方向の連続性や、周辺とのネットワークを確保することはとても重要です。

### 3. その川らしい生物の生息・生育環境を保全・復元しよう

希少種や絶滅のおそれのある種はもちろんのこと、その川の特徴的な環境に生息・生育する動植物を代表する生物に着目することにより、その川らしい生物の生息・生育環境を保全・復元していく視点が必要です。

### 4. 水の循環を確保しよう

地下水や湧水など自然の水の流れを遮断しないように、水際域の透水性を確保するなど、水の循環の確保に努めることが必要です。

### 5. 市民、学識者、関係団体等の理解と協力を得よう

河川に関する情報を発信するとともに、川に関心を持つ市民や学識者、関係団体等と日常的に情報交換や意見交換を行うことが重要です。